

●会期:10月28日(水)～11月2日(月)

片桐 聖子 展 — 海と犬と日々 — 〈絵画〉



神奈川県に生まれ、1992年東京藝術大学大学院視覚デザイン専攻を修了。イタリアミラノにて様々な技法に触れ、以降、日本画、洋画に限らず多様な素材を活かす重層的かつ色彩豊かな表現で発表されています。今展では「海と犬と日々」と題し、日々のくらしの大切さに趣をおいた情景、地元鎌倉の風景など作家にとって身近な身の回りの物たちをモチーフに色彩豊かに表現された作品を一堂に展観いたします。

「window and table 朝」
33.4×24.3cm (4号F) キャンバス、
岩絵具、アクリルメディウム

小黑 アリサ 展 — 謳歌 — 〈木彫〉

内に生命力を宿した動物たち、物語から出てきたようなビュアな存在は、無垢な木のぬくもりを身にまとっています。横浜高島屋での4年振り2回目となる今展では日々の中に満ちている、いのちの輝き「謳歌」をテーマにした作品を展観いたします。



「純」(楠・水晶) H33.5×W12×D15cm

11月の予告

- 会期:11月4日(水)～9日(月) —
泉谷 淑夫 展〈洋画〉／常信 明子 展〈七宝〉
- 会期:11月11日(水)～16日(月) —
現代根付展〈彫刻〉／高橋 朋子 展〈陶芸〉
- 会期:11月18日(水)～23日(月・祝) —
市川 透 展〈陶芸〉／依田 万実 展〈日本画〉
- 会期:11月25日(水)～30日(月) —
岸野 承・寛 展〈彫刻・陶芸〉／吉川 かおり 展〈彫刻〉

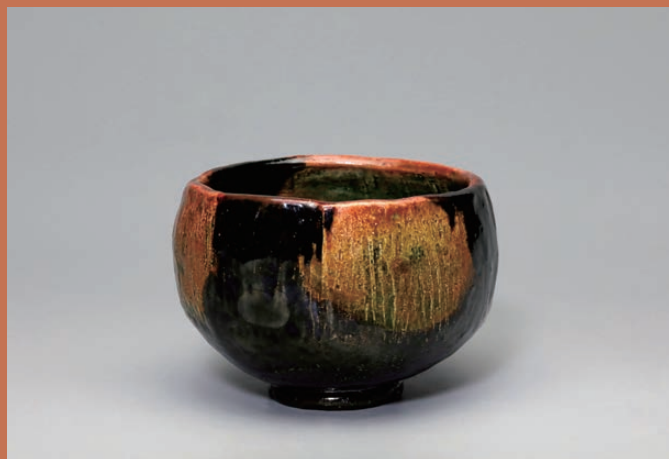
ART INFORMATION

「美」との出会いを提供して1世紀。暮らしに「アート」をお届けします。

横浜高島屋美術画廊のご案内

10月

October 2026



「大樋窯変茶盃」径12.1×高さ8.5cm

●会期:10月21日(水)～26日(月)

大樋焼開窯 360年・日本藝術院会員就任記念 十一代 大樋 長左衛門 展〈陶芸〉

※都合により営業時間・催し内容が変更になる場合がございます。また、商品の販売中止・販売期間が変更になる場合がございます。

高島屋の美術

高島屋各店美術画廊・
展覧会のご案内



横浜高島屋美術画廊のご案内は
【公式】横浜高島屋美術画廊
のInstagramでも
ご覧いただけます。



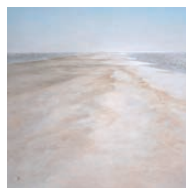
●会期:9月30日(水)～10月5日(月)

NIHONGA ○ - en - 同心円

— 音楽が聴こえる — 〈日本画〉

国内外で活躍する日本画家19名が、活動地域や表現の違いを超えて繋がり、一石が水面に作り出す波紋のように新たなエンを生み出し広がることを目指し、「NIHONGA ○-en-」と称し結成。横浜初開催の今展では「同心円」というタイトルで「音楽」をテーマに展観いたします。

■ギャラリートーク ●10月3日(土)午後2時から
※ギャラリートークに関する情報は横浜高島屋ホームページをご確認ください。



佐々木 真士「ガンジスの洲」
53.0×53.0cm(10号S)、紙本彩色

【出品作家】(五十音順・敬称略)

秋山 淳・有富 禎子・金木 正子・川村 愛・木下 めいこ・後藤 吉晃・佐々木 真士・平良 優季・田住 真之介・立尾 美寿紀・手塚 葉子・中野 浩樹・滑川 道広・丸山 明・水野 悠衣・矢吹 沙織・山本 陽光・横山 芙実・若林 静香・渡邊 葉子

土岐 千尋 木漆工芸展



「楓陣笠形箱」
21.5×16×高さ9.5cm

1971年武蔵野美術大学産業デザイン科卒業。デザイン事務所を経て人間国宝 黒田辰秋氏に師事。先生の「箱」は、拭き漆の光とともに、従来の「四角い箱」の概念を越えた変幻自在のフォルムとなっています。フォルムと木目が奏でる木漆工芸の世界をご高覧ください。

●会期:10月7日(水)～12日(月・祝)

千々岩 修 展 — 生き継ぐ時間 — 〈日本画〉

1971年熊本県出身、1997年多摩美術大学大学院日本画科を修了。在学中より新鮮な感覚での日本画の手法が注目を集め、現在まで常に新しい表現を追求し意欲的に制作を重ねています。今展では、『生き継ぐ時間』をテーマに岩絵の具を用いた独自の美しい色彩と、大胆かつ繊細な筆遣いによる独自の空間表現を活かした作品の数々を一堂に展観いたします。



「水域」31.8×41.0cm(6号F)
雲肌麻紙、岩絵具、水性顔料

岡田 泰・田原 崇雄 萩二人展 〈陶芸〉



澄み渡る味わい深い淡い青釉と、柔らかな表情を併せもった作品を制作される萩焼の岡田泰先生。そして、独特の色彩表現の流白釉と独自の造形美、質感にこだわり制作される萩焼深川窯の田原崇雄先生。伝統の萩焼を豊かな感性を持って広げていく二人の作品をご高覧ください。

左:田原崇雄「流白釉花入」径12.2×高さ19.7cm
右:岡田泰「淡青釉壺」径20×高さ25cm

●会期:10月14日(水)～19日(月)

伊藤 北斗 作陶展 〈陶芸〉

1989年東京藝術大学大学院陶芸専攻修了後、藤本能道氏(人間国宝)の内弟子になりました。1993年東京都日野市に築窯。何度も焼成し色を塗り重ねることにより深みのある複雑な発色を生み出す、釉刻色絵金銀彩という独自の技法を確立。動物や植物を独創的に描き、さらに幾何学文を融合した伊藤先生ならではの作品を展観いたします。



「釉刻色絵金銀彩香炉(台付)」
12×11.1×高さ13.3cm

渡辺 香奈 展

— 猫のひげ 花の影 — 〈洋画〉



慶應義塾大学大学院を修了後、文化庁新進芸術家派遣にてスペインに留学。そこで培ったデッサン力で、愛らしい猫や花の作品を描き出しています。今展では、「猫のひげ 花の影」と題し、油彩作品や養蚕業から排出される桑木炭を使ったデッサン作品などを一堂に展観いたします。

「いい夢見てる」
45.5×38.8cm(8号)木炭紙に桑木炭

●会期:10月21日(水)～26日(月)

大樋焼開窯 360年・日本藝術院会員就任記念 十一代 大樋 長左衛門 展 〈陶芸〉

大樋焼は江戸時代初期、加賀藩前田家の御用窯として金沢の地に開窯されました。裏千家・四代 千宗室(仙叟)と初代長左衛門がともに築き上げた精神は、以後360年にわたり代々の当主へと受け継がれ、時代を超えてなお今日に息づいています。十一代大樋長左衛門先生は伝統を継承しながらも建築やデザイン、空間プロデューサーなど幅広い視野で制作活動が続けています。近年では国際的な評価を一層高められ、2025年に日本藝術院会員に就任されました。茶盃、水指、花入のほか、オブジェ、陶板ほか作品を一堂に展観いたします。



「大樋琥珀釉茶盃」
径13.3×高さ8.8cm